

「モノ」への探求を基にした中学校歴史授業開発

安部 康史*・吉川 幸男

A Study on the Development of the History Lessons Based on the Research of “Real Thing”

ABE Yasushi*, YOSHIKAWA Yukio

(Received January 15, 2008)

キーワード：「モノ」教材、探求過程、歴史教材

はじめに

社会科の授業とりわけ歴史授業において、実物教材を意味する「モノ」を用いることは、一般的・通念的には有効なこととみなされている。「モノ」教材を紹介した出版物、WEBページは少なくない。¹⁾ ここでは、「モノ」教材を授業に用いることの意義に関して「モノは子どもの好奇心や探究心、創造性をゆさぶる。そして、やってみたい、調べてみたいという意欲的な追究態度を生む²⁾」あるいは「人間社会を代弁するもの³⁾」とされている。これらの中でいくつかは、実際にそのような「モノ」教材を使用した授業事例もあげ、その有効性を説いている。

しかしながら、こうした先行事例が説く授業構成には、以下のような基本的な問題点を見出すことができる。

第一に、歴史学習としての「モノ」探求の意味付けに関する問題である。「モノ」を用いた授業の多くは、「モノ」を使うことによって子どもの興味・関心を高めることに目的の重点が置かれ、歴史学習の教材としての「モノ」の持つ価値がどこにあり、それを引き出すためにどのように授業が構成されるべきなのかを明らかにしていない。わずかに、白川隆信(1993)が「モノ」教材を教具との比較の中で授業論に位置づけようとしたものがある程度である。⁴⁾

第二に、「モノ」の教材論的位置付けに関する問題である。「モノ」を教材として用いた授業の多くは、「モノ」を用いることのみ重点が置かれ、「モノ」と「モノ」以外の資料との関係を明らかにしていない。実際問題「モノ」教材がいかに有効であったとしても、「モノ」教材のみで成立する歴史学習は想定しにくいと考えられる。この意味で、「モノ」教材を歴史教材全体の中に位置付けることが必要である。

第三に、「モノ」に対する学習活動に関する問題である。「モノ」を教材として用いた多くの授業においては、教師による問いも「モノ」を表面的に観察した結果に関する問いが多く、「モノ」から直接見えない人の動き、意図、背景などの考察に向かうことが少な

*教育学研究科社会科教育専修

い。言い替えれば「モノ」に対する探求が、その「モノ」の現象面にとどまっておき、「モノ」から社会の構造、変化・発展等に向かう学習が有効に組み立てられているとは言い難い。

以上3点にみられるように、歴史学習において「モノ」教材が有効とされる場合、その有効性は専ら興味・関心の惹起という方法的・手段的な次元での有効性に限られ、「モノ」教材の歴史学習対象としての意義、歴史教材論、歴史学習活動論に関しては理論的にも実践的にも十分な蓄積が行われてこなかったといえる。

そこで本小論では、「モノ」教材を子どもの興味・関心の惹起にのみ用いるのではなく、「モノ」教材が歴史学習においてどのような意義・役割を担い得るのかという観点から、歴史教材としての「モノ」を中心とした単元構成、その探求過程、教材構成のあり方を明らかにした上で、試案事例となる若干の授業モデルを提示することを試みる。

1. 「モノ」教材の類型と探求過程モデル

1-1 「モノ」教材の4類型

歴史学習ではさまざまな種類の「モノ」が教材として活用され得る。例えば阿部（1993）の『日本史モノ教材』には71の事例が列挙されている。⁵⁾ 中には、例えば「ポーツマス会議の号外」のように、ある特定の歴史的一事象に関する固有性の高い教材もあれば、「あんパン」のように現在でも国内至る所で入手可能な一般性の高い教材もある。このように、取り上げる「モノ」が特定性・固有性の高い教材か、普及性・一般性の高い教材かという点は、以後の授業展開に大きく影響すると思われる。というのも、何者かが記録した歴史史料とは異なり、遺された物的な対象を歴史学習の探究対象とする場合、その対象がどの程度広範に遺されているものかという「分布」の度合が、その対象が指し示す歴史的固有性、特色を規定することになるからである。中学校歴史学習では「各時代の特色」を理解することは学習指導要領の目標記述にも明示されるように基幹的な目標に位置付けられるだけに、上記の点は授業の目標設定に関わるのである。

「モノ」教材を、特定性・固有性と、普及性・一般性との両極において類別する場合、そこには次の4つの段階を区分することができる。まず第一に、最も特定性・固有性の高い段階の「モノ」として、その「モノ」が他に類例がなく唯一である場合がある。第二に、その「モノ」の類例はあるが、それらがある特定の時代、地域に集中して存在する場合がある。第三に、その「モノ」の類例はかなり幅広い時代にまたがって分布しているが、ある特定地域に集中して存在する場合がある。そして第四に最も特定性・固有性の低い段階の「モノ」として、その「モノ」が特定地域・時代にかかわらずかなり広範に存在する場合がある。この4種の「モノ」を作業上、以下ではそれぞれ「モノ①」「モノ②」「モノ③」「モノ④」と称することとする。（表1）

表1：「モノ」教材の類型

| | モノ① | モノ② | モノ③ | モノ④ |
|------------|-----|-----|-----|-----|
| 地域的特定性・固有性 | ○ | ○ | ○ | × |
| 時代的特定性・固有性 | ○ | ○ | × | × |
| 唯一性 | ○ | × | × | × |

「モノ①」は支配者に関わる「モノ」である場合が多い。これを用いた学習は、ある時代、ある地域における政治体制（人物・関係）をとりまく情勢を理解することがその主要

な内容となる。「モノ」の形式学的特徴を明らかにし、そこから見つかる数多くの特徴から支配者がその「モノ」を用いた背景を追究する学習が想定される。

「モノ②」は、ある地域、ある時代に限定して用いられたもので、その地域にその時代に用いられた時代背景や空間的・時間的分布から政治的・経済的、そしてその地域の人々の生活に関わる分野にまで至る内容を学習することができる。これらの社会的事象を具体的にとらえることによって、その時代にその地域を取り巻いた全体的な社会の構造を理解することができる点に意義があると考えられる。

「モノ③」は、長い時期にわたって特定地域で用いられた「モノ」であり、ある地域の長期的な生活・文化様式にかかわる内容を学習することができる。長期的に用いられた「モノ」であるので他の地域との関係やモノの質などの変化をとらえ、現在につながる課題にも触れることができる。具体的には民俗資料などが考えられ、実際に手にとって使い方を考える学習活動が可能であり、有効である。

「モノ④」は、時代・地域を超えて広範囲に用い続けられている「モノ」である。このため、社会・経済・生活など広い範囲におよぶ社会構造の変化にかかわる学習が可能となる。現在まで用いられている「モノ」であるので、生徒にとってもある程度身近であり、価値の変化などの面から社会的・経済的そして生活分野に加えて政治的関係について理解することができる。

1-2 「モノ」を対象とした探求過程

以上4種の「モノ」教材としての特性を踏まえて、それぞれの「モノ」を中心的な教材として単元の目標に迫る場合、どのような探求の過程が求められるのであろうか。

川上周二(1994)は、考古学の研求過程と成果に基づいて歴史授業を構成する方法として、考古学的探求の方法的側面に注目し、「機能・用途論」と「分布論」を用いた探求過程モデルを示し、「機能・用途論」によって、考古資料から歴史事象を解釈する際に科学的な解釈を、また「分布論」によって分布の粗密をもたらした人の意図的な活動を原因として解明することを試みている。⁶⁾ただし川上の研究は考古学的な方法で遺構・遺物を対象とすることに特化した授業構成研究であるため、考古資料的な性格を持たない「モノ」教材には当てはまりづらいという限界をもっている。そこで、基底的には川上の研究を踏まえつつ、4種の「モノ」教材で活用できる探求過程モデルへの再構成が必要である。

「モノ④」を除く3種の基本的な探求過程としては、子どもにとって身近ではない「モノ」を用いるため、自然に「これは何?」といった問いが生じる。このため、探求の最初の過程として「モノ」の機能や用途を「分析」する過程が必要となる。次に、「モノ」をさまざまな視点から見直して背景を探ったり、仮説を立てたりして「吟味」する段階、最後に「モノ」から得られた社会的事象を全体の歴史の中で位置づける「解釈」の段階という、3つの大きな過程をたどることとなる。このように一般的な「モノ」の探求過程としては「分析」→「吟味」→「解釈」が基本型となる。

4種の「モノ」のうち、「モノ②」と「モノ③」は特に「分析」の段階で用途について検証し、「吟味」の段階で分布や背景などから検証していくのが妥当であろう。この両者の異なる点は、重点となる学び方の違いである。「モノ②」は数多くあるものなので「吟味」の段階で分布に関する学習活動に重点が置かれるが、「モノ③」は、特定の地域で長期的に用いられた、いわゆる民具に近い「モノ」であるので、「分析」の段階に重点を置

き、使っていた人々の生活・文化まで明らかにしていくことが以後の段階での学習活動の重点になろう。これに対し「モノ①」は唯一性をもつので「なぜ～のようなことをしたのか」など、人の行為に対していろいろな背景から推測を加え、検証していくことに重点が置かれよう。また「モノ④」は時代ごとに作られたり使われたりしている、そうした時間の経過とともに形状や質、社会・経済における価値などは変化しているため、そのような変化をとりまく背景・社会構造が学習の重点となろう。以上のような基本形と各類型の重点に即し、4種の「モノ」教材の探求過程モデルを描出してみよう。

「モノ①」はほとんど生活的関係性のない非日常的な「モノ」であり、かなり客観的な考察から出発することになる。「分析」の段階では「モノ」の特徴に関して、大きさ、重さ、装飾、形状、材質等さまざまな視点から特徴を抽出することが必要であり、併せて、その「モノ」を経験上類似した性格のモノと比較することによって、その「モノ」の特徴を効果的に把握することができる。また、唯一のモノであるので分布論で吟味する必要性は低く、仮説を立ててさまざまな視点から検証する過程が「吟味」の過程の主要な学習活動となる。「吟味」の段階では、子どもの日常的な経験をもとにした仮説から、特徴が類似した資料をもとにした科学的性の高い仮説へと移行する。そうして立てた仮説をさまざまな資料から検証し、「モノ」から全体を評価する「解釈」の段階となる。(図1)

図1：「モノ①」に対する探求過程モデル

| 《探求過程》 | 《探求方法》 | 資料内容 |
|------------------------|---|--|
| I 資料の分析 | 1 資料の型式学的特徴を抽出する。 ・大きさ、重さ、装飾、形状、材質等 | |
| | ↓ | |
| II 資料の吟味 | 2 特徴が類似した資料から仮説化する。 (1)日常的経験からの仮説 (2)科学的資料からの仮説 (3)類似したモノの分布からの仮説 | ①日常的資料 ②民俗・民族学的資料 ③文献・絵画史料 ④分布図 |
| | ↓ | |
| | 3 さまざまな視点から検証する。 (1)発掘の出土状況からの吟味。 (2)自然科学的分析結果からの吟味。 (3)仮説を踏まえた実験結果からの吟味。 (4)時代背景からの吟味。 | ⑤発掘調査報告書等の資料 |
| | ↓ | |
| III 資料の解釈 (意味づけ・解釈) | 4 意味づけをする。 ・モノから全体を評価する。 | |

「モノ②」は、ある時代、ある一定の地域に分布するものであるもので、分布論から検討することが「吟味」での主要な学習活動となる。「分析」の段階で既習知識や既存の知識既習をもとに特徴を抽出し、「いつから用いられるようになったのか」という時間的な分布、「どの範囲まで用いられていたのか」という空間的な分布をもとに「吟味」していく。時間的な分布の中で、用いられた量やその「モノ」の価値などの変化も読み取ることが必要になる。このような分布論の「吟味」によって歴史事象を因果関係的にとらえることができる。こうして「モノ」とその時代背景が結びつき、「解釈」の段階で「モノ」から全体を評価することが可能となる。(図2)

「モノ③」は、「分析」の段階で用途を触ってみたり、実際に使ってみたりする学習活動を通してしっかりと検討し、モノを使っていた人々の生活・文化を明らかにしていくこ

図 2 : 「モノ②」に対する探求過程モデル

| 《探求過程》 | 《探求方法》 | 資料内容 |
|------------------------|------------------------|-----------------------------|
| I 資料の分析 | 1 資料の特徴を抽出する | ①既存の知識 a 既習知識 b 既存の知識 |
| | a 形状(文字・紋様などの装飾を含む) | |
| | b 材質 | |
| | c 規模 | |
| | d 価値 | |
| | (* 用途に変化があるか。) | |
| II 資料の吟味 (仮説化) | 2 資料を分布論から吟味する。 | ②時間的・空間的分布を示す資料 |
| | a いつから?~時間的 | |
| | b どこまで?~空間的 | |
| | 3 背景をさぐる。 | ③歴史的背景を示す資料 |
| | 4 仮説を立てる。~背景から何がいえるのか。 | ④統計資料等 |
| III 資料の解釈 (意味づけ・解釈) | 5 意味づける。 | ⑤絵画・写真資料 |
| | ・モノから全体を評価する~微視的 | ⑥当時の支配者の証言 |
| | | ⑥モノを使っていた人々の証言 |

とに重点が置く点に取扱い方の特徴がある。「分析」の段階で機能・用途にとどまらず、使っていた人々の生活や文化にまで踏み込むことが前述の2つのモデルと大きく異なる点である。「吟味」の段階では他の地域とのかかわりなどに関する視点から「モノ」をもう一度検証し、他の地域との関係と、「分析」の段階で明らかにした「モノ」を用いていた人々の生活・文化とのかかわりやその変化を学習する。「解釈」の段階では歴史上の意味はもちろんのこと、他の地域との関係や伝統的に用いられた「モノ」であるという性格から、今日的意味についても学習することになる。(図3)

図 3 : 「モノ③」に対する探求過程モデル

| 《探求過程》 | 《探求方法》 | 資料内容 |
|------------------------|---|-----------------------|
| I 資料の分析 | 1 資料の特徴を抽出する 用途に注目して検証する。 | ①既存の知識 ・音声、映像資料 |
| | ↓ | |
| | 2 資料を人の活動から解釈する。 a どんな暮らしをしていたのか。 b どんな人と交流していたか。 | |
| | ↓ | |
| II 資料の吟味 | 3 資料の特徴を他の視点からもう一度検証する。 | ④教科書などの記述 |
| | ↓ | |
| | 4 人の動きによる影響 | |
| | ↓ | |
| | 5 仮説を立てる。~人の動きによる影響からどんなことがおこりえるか。 | ⑤支配者の動きのわかる資料 |
| | ↓ | |
| III 資料の解釈 (意味づけ・解釈) | 6 意味づける。 | ⑥モノにかかわる人の証言 ⑦歴史年表 |
| | 歴史上の意味 | |
| | 関係上の意味 今日的意義 | |

「モノ④」は、現在も日常生活の中で目にする機会が多い。このため「これは何?」という問いから学習活動を始めるよりも、その「モノ」が登場する、あるいはその「モノ」の価値が変わる時代背景の探求から入るほうが学習を進めやすい点に「モノ」①~③の探求過程モデルと大きく異なる。また、過去から現在まで存在し続ける「モノ」であるので、

「吟味」の段階では「変化」の視点で「モノ」を吟味することが大きな意味を持つことになる。形状・用途・価値の変化に着目し、さらに「モノ」にかかわる人（作らせた人、作った人）の動きを吟味することから、「モノ」を取り巻く社会構造の問題点に注目し、吟味することができる。（図4）

図4：「モノ④」に対する探求過程モデル

| 《探求過程》 | 《探求方法》 | 資料内容 |
|--------------------|---|-----------------|
| I 資料の背景の探求 | 1 当時の資料の時代背景を探り、資料に至る課題設定をする。 | ①当時の課題がわかる資料 |
| | ↓ | |
| II 資料の吟味（変化の視点） | 2 資料の今と昔の違いを抽出する。 | |
| | ↓ | |
| | a 形状等の変化 b 用途の変化 c 価値の変化 | ②既存の知識 |
| | ↓ | |
| | 3 資料を人の動きから吟味する。 a 作った人の立場から b 作らせた人の立場から | ③資料にかかわる人に関する資料 |
| | ↓ | |
| | 4 条件整備等に関する考察。 | |
| | ↓ | |
| | 5 仮説を立てる。～資料と社会構造の変化を検証する。 | ④支配者の政策 |
| | ↓ | |
| III 資料の解釈（意味付け・解釈） | 6 意味づける。 ・モノから全体を評価する～微視的 | |

このように、4種の「モノ」に対する探求過程モデルは「分析」→「吟味」→「解釈」を基本的な探求過程としながらも、4種それぞれの歴史学習上の重点の違いにより、幾分かの差異のあるものとなる。なお、いずれのモデルにおいても、「モノ」教材を活用する以上、「解釈」の段階では「モノから全体（時代解釈）を構成する」微視的視点からの意味づけとなるのが一般的であると考えられるが、「モノ」の性格あるいは学習活動の展開によっては「全体（時代解釈）からモノを評価する」巨視的視点からの意味づけをする学習活動が必要な場合もあるであろう。

2. 「モノ」への探求過程を基にした単元構成

以下では、4種の「モノ」とそれぞれの探求過程モデルによる単元構成の事例を、試案的に示す。「モノ①」では「金印」、「モノ②」では「軍票」、「モノ③」では「ムックリ」「モノ④」では「生糸」を「モノ」教材として取り上げる。

2-1 「モノ①」への探求過程による単元構成試案 ～「金印」の場合～

○単元名 「金印と小国家の形成」

○単元の目標

金印を通して日本列島で狩猟・採集を行っていた人々の生活が、大陸から伝わった稲作の広まりとともに変化し、倭国の小国家が形成され、互いに勢力をのぼそうとす

るなかで中国との関係が深まったことを理解する。

○単元の概要（4時間計画）

| 学習内容および学習活動 | 生徒の反応 | 資料 | 教師の手だて |
|--|---|---|--|
| <p>【第1時】</p> <p>①金印を提示し、触ってみたり、校長印と比較する。</p> <p>②金印の材質・装飾・構造の面から問題点について自分たちの考えをまとめる。</p> <p>③資料「地域別の鈕の飾り」を見て、なぜ奴国の王に蛇のかざりの印が授けられたのか考える。</p> <p>④陰刻になっている当時の印がどのようにして使われたか考える。</p> <p>⑤「漢倭奴国王」の意味を知るために中国の皇帝が他の地域の権力者に授けた印図の中から「王」という文字があるものの分布の特徴を見つける。</p> | <p>・金でできている</p> <p>・鈕に飾りがある</p> <p>・穴があいている</p> <p>・字のほうが彫られている</p> <p>材質（金）は皇帝の権威と奴国の強さの誇示、構造（鈕のかざり・穴）は豪華さ、ヒモを通す、字のほうが彫られている（陰刻）。</p> <p>・日本のことが嫌いだった？（蛇＝気持ち悪い）</p> <p>・日本のことを敬っていた？（蛇＝守り神）</p> <p>周辺地域にやや多い</p> | <p>I</p> <p>II</p> <p>III</p> <p>IV</p> | <p>・本物に忠実なレプリカであることを解説する。</p> <p>・中国の皇帝から日本の「奴国」の王に授けられたものであることを解説する。</p> <p>②教科書の資料より、中国（漢）がさずけた印の材質は必ずしも金ではないことを確認し、資料から飾りが他の印と同様ではなく、いろいろな飾りがあったことに気付かせる。鈕の穴は、中国の古文書から、紫色のヒモだったことがわかっている</p> <p>「字のほうが彫られている」</p> <p>・実際にノートに押印させてみる</p> <p>④各班に箱とヒモと粘土を渡し、どうやって使うのか試させ、自分たちの案ができたから見せに来させる。</p> <p>⑤「王」と漢の皇帝との関係はどうなるのか考えさせる。</p> <p>※官位名には「王・国王」のほか「仟長・伍長」などがある。周辺国へ「王」の称号を送る傾向がある。</p> |
| <p>【第2時】</p> <p>①倭国は漢の枠に入っていないのにどうして「漢倭奴国王」なのか考える。</p> <p>②周辺の国々はどうして漢の文字＝漢字が読めたのかという点に注目させる。</p> <p>③漢の前の秦の始皇帝が行ったことを教科書や資料集から探す。</p> <p>④始皇帝が広い中国を支配していく上で漢字の果たした役割について考える。</p> <p>⑤中国の歴代王朝が頻繁に変わっていることから、それだけ中国で統一王朝を持続することは難しいことを認識し、漢の国内にも印を授けた理由を考える。</p> | <p>①漢の権威を借りて奴国は統治した</p> <p>②「漢字を勉強した。」 「漢字を知っていた。」</p> <p>③</p> <p>・万里の長城</p> <p>・兵馬俑</p> <p>・度量衡、貨幣の統一</p> <p>・漢字の使用</p> <p>・阿房宮</p> <p>④「始皇帝の命令を伝達するため」 「役人を派遣した。」</p> <p>⑤国内にも敵がいるのだろうか！？</p> | <p>IV</p> <p>V</p> | <p>①どうして漢が印を授けているのか課題意識を持たせる。</p> <p>・日本はどうなっているか確かめる。</p> <p>・印を授かること＝王としての地位を認められたことになる。</p> <p>②日本への漢字の伝来について確認する。</p> <p>③暴君としてのイメージがあることを確認する。</p> <p>始皇帝が漢字を広めたことによりかなり広い範囲で漢字が読み書きされている。</p> <p>④租税等の命令を確実にするために、言語の統一は必要（度量衡も）</p> <p>⑤対外的にも対内的にも難しい状況だったことがうかがえる。</p> |
| <p>本時でおきた課題</p> <p>①漢はどうして印を授けたのか？ ②奴国は喜んで金印をもらったのか？</p> | | | |

| 学習内容および学習活動 | 生徒の反応 | 資料 | 教師の手だて |
|---|---|-------------------|---|
| 【第3時】 ①北部九州の小国家群の様子を見て、同じような国の中から奴国だけが金印をもらえた理由を考える。 ②金印が授けられた当時、山口県では土井が浜遺跡の人々が海岸にお墓をつくっており、その中に12本もの矢が刺さった人がいた理由を考える。 ③縄文時代と、弥生時代のムラのようにすを比べてる。 | ①奴国が強かった？ 奴国が金印をととも欲しかった ②矢で打たれて死んだ。 ③弥生には柵・堀・倉庫・物見櫓がある。 | VI VII VIII | ①漢の皇帝が遠く離れた小国のことなど詳しく知ることはなかったことが想像できる。 ②縄文時代にはあまりなかった。 ③縄文の九州では上野原遺跡（鹿児島県）があり、南方の影響を受けた生活を営んでいた。 |
| 縄文と弥生のムラを比較して、大きな違いの原因となつたものは何だろう？ | | | |
| | ・倉庫 | | ・余りが出来、蓄えができるようになると身分の上下関係が起こる。 |
| 【第4時】 ①1世紀から3世紀までの日本の変化を調べる。 ②漢の皇帝が“金印紫綬”という最高ランクの印を授けられた理由を考える。 | ①国の数が減っている。争いで国がまとめられていった。 ・漢に攻めてきたら困る。 ・奴国の力を認めていた。 | IX | ①それぞれの歴史書の中で、倭にいくつの国があるのか確かめる。 100→30→1と、国の数が減る過程で争いが起こったことを想像させる。 |

※資料Ⅰ：金印（レプリカ）、資料Ⅱ：校長印（本物）、資料Ⅲ：各地の印の鈕の形状（①—p. 20）、資料Ⅳ：中国各地の印図（②—p. 32）、資料Ⅴ：中国の歴代王朝、資料Ⅵ：北部九州の小国（③—p. 227）、資料Ⅶ：土井が浜遺跡の矢が12本刺さった人骨（④）、資料Ⅷ：三内丸山遺跡と吉野ヶ里遺跡そして上野原遺跡の村のようす（①—p. 32）

○使用文献

- ①『社会科 中学校の歴史』帝国書院、2005
- ②白川隆信『歴史モノ教材で授業を変える』地歴社、1993
- ③高見勝即『倭の女王国を推理する』海鳥社、2001
- ④土井が浜遺跡・人類学ミュージアム『土井が浜遺跡と弥生人』泉菊印刷株式会社、1993
- ⑤鹿児島県埋蔵文化財センター『上野原遺跡現地説明会資料』1998

2-2 「モノ②」への探求過程による単元構成試案 ～「軍票」の場合～

○単元名 「軍票と太平洋戦争」

○単元の目標

軍票を通して、国際関係の行き詰まりから、大東亜共栄圏の名の下に南方に侵略した目的や実態を知り、また、軍票が濫発されたことから戦局が悪化したことと軍票を用いた占領地支配の実態について考える。

○単元の概要（3時間計画）

| 学習内容および学習活動・発問 | 生徒の反応 | 資料 | 教師の手だて |
|---|--|---------|---|
| 【第1時】 ①日本の軍票と現在の紙幣を比べて異なる点をあげてみる。 | ・肖像画ない ・透かしがない ・日本政府発行なのに単位がドルだ。（番号がない） ・バナナとヤシが描かれている。 | I II | ・軍票の特異性を知るために現在の紙幣と比較させてみる。 ・その他の地域での軍票の資料も提示し、各国の通貨単位で作られていることに気付かせる。 |

| 学習内容および学習活動・発問 | 生徒の反応 | 資料 | 教師の手だて |
|---|---|--------------------------------|---|
| <p>②連合軍が沖縄で戦後約 10 年間使用された B 軍票と日本の軍票と比較してみる。紙幣に番号がないことの問題点について考えてみる。</p> <p>③軍票の性格を知るために、英語でどんなことが書かれているか読んでみる。</p> <p>※“PROMISED”とは、どんなことを約束したのか？</p> <p>④東南アジアの他の地域で使われた軍票と比べてみる。</p> <p>⑤占領地政策として必要なことを考える。</p> <p>⑥日本軍はなんのために軍票を発行したのか考える。</p> <p>⑦この軍票をもらった東南アジアの人々はどうすればよいか考える。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・小さい ・B って書いてある。 ・番号がある。 ・何枚発行したかわからない。 <p>THE JAPANESE GOVERNMENT</p> <ul style="list-style-type: none"> ・PROMISED TO PAY THE BEARER ON DEMAND ・TEN DOLLARS ・MP <p>* 軍票もとの通貨を交換すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単位が違う。 ・英語じゃない。 ・MP とは違う記号だ。 <p>⑤旧支配勢力の排除や新しい支配の仕組みを整える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本の言うことをきかせるため。 ・“PROMISED”と書かれているのだから、もとの通貨に交換してもらおう。 ・おとなしく軍票を使う。 ・表では軍票を使い、裏では他の通貨を使う。 | <p>III</p> <p>II</p> <p>IV</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・ B 券、B 円とよばれ、A 円は南朝鮮で用いられた。 ・ MP はマレー半島のペナンをさす。 ・ 軍票が占領地の通貨と交換させられて流通させられていたものであることを解説する。 ・ 交換するためにはどこに持っていけばよいのか考えさせる。 ・ MP などの記号は地域をあらわしている。→地域(国)別に異なる軍票が発行された。 ・ イラク戦争で米英軍がイラクを占領したときにどんなことをしたかなどを思い出させてみる。 ○フセイン勢力の排除 ○暫定政府の確立 など 「日本の“円”を使わせるのはダメなのだろうか？」 「軍票は最後には決算しなければならぬが負けたとなかったことになってしまう。現地の人々の生活はどうなってしまうのだろうか？」 ・ 軍票の被害に苦しむ現地の人々の証言を読む。 |
| <p>【第 2 時】</p> <p>①軍票の問題点を整理し、初期の軍票と比較してみる。</p> <p>②発行部数の移り変わりを見る。</p> <p>③軍票の発行が急激に増えた理由を考えるために、1941 年から 1942 年にかけて起きた出来事を年表で調べてみる。</p> <p>④太平洋戦争の戦局を確認する。</p> <p>※「日本軍がハワイを攻撃した理由は何だろう。」</p> <p>⑤東南アジアの国々の中で日本</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・ 番号がないので大量発行できる。 ・ 番号がある！ ・ ずいぶんぼろぼろだ。 ・ 「M」の形が違う。 ・ 図柄は同じだ。 ・ 急激に増えている。 ・ ミッドウェー海戦での敗北 ・ 戦争に負けそうになってきたので大量発行して現地の物資を買おうとした。 <p>④最初は勝っていたが、ミッドウェー海戦からは負け続けている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ハワイの太平洋艦隊を攻める。 ・ 石油のあるインドネシア | <p>V</p> <p>VI</p> <p>VII</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・ インフレが起こることも確認する。 ・ 初期の軍票にはきちんと番号が入っていたことを解説する。 ・ 資料 I の軍票は現地で印刷された。それ以前の(番号入りの)軍票は日本で印刷された。 ・ 増え始めたのが 1942 年からであることを確認する。 ・ 1942 年以降の軍票には番号がない。 ・ 軍費の調達→日本でインフレを起こすわけにはいかない→ ・ 南方戦線の支援であり、南方侵略こそが目的だった。 |

| 学習内容および学習活動・発問 | 生徒の反応 | 資料 | 教師の手だて |
|---|---|---|---|
| <p>の一番欲しかった国はどこだろう？</p> <p>⑥番号のない軍票が発行された理由を考える。</p> <p>※「大量発行された軍票を日本軍はどう使うのだろうか？」</p> <p>※「軍票の発行数と物価の関係はどうなっていますか？」</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・どれくらい印刷されているかよくわからなくなる。 ・大量発行しやすい。 ・石油をたくさん買う。 | | <ul style="list-style-type: none"> ・地図帳の巻末資料から各国の資源等について調べさせる。 ・ABCD包囲網で追い込まれていた日本の状況について理解させる。 ・戦局が悪化すると植民地から大量の物資を買い上げるために軍票を乱発した。 ・実際、“大東亜共栄圏”の理想を信じて日本軍を歓迎していた地域もあった。しかし、日本軍が行ったのは収奪だけだったことを理解させる。 |
| 【第3時】 | | | |
| <p>イギリス・オランダ・アメリカに代わって東南アジアを占領した日本を、現地の人々はどう思っていただろう？</p> <p>歓迎しただろうか、それとも敵対したのだろうか？</p> | | | |
| <p>①日本軍に対する反応を示す2枚の写真を比べる。</p> <p>②日本軍を歓迎した地域があったのはどうしてなのか考える。</p> <p>③抗日ゲリラも各地で蜂起しており、日本の支配のどんなことに反発しているのか考える。</p> <p>④日本が負けて東南アジアから撤退したあと、軍票はどうすればよいのか考える。</p> <p>⑤軍票のように東アジアの人々が戦後、日本に対して補償を求める訴訟の内容を調べる。</p> <p>⑥日本はこれらの訴訟に対してどのように対応したらよいか考える。</p> | <p>①歓迎しているものと武装しているもの。</p> <p>②欧米の国の支配から解放してくれる。</p> <p>③軍票によって財産を奪われ、軍票で資源を奪っていた。</p> <p>④「PROMISED」と書いてあるからもとのドルなどに交換してもらおう。</p> <p>⑤慰安婦・強制連行・抑留</p> <p>「すべて補償に応じるべき」「補償しなくてよい」の2点について理由をつけて発表する。</p> | <p>VIII-1</p> <p>VIII-2</p> <p>VIII-3</p> <p>IX</p> | <p>・これら2枚の写真は時間の経過による変化ではなく地域によって日本軍を歓迎した地域もあった。</p> <p>・「アジア人の支配によるアジア」「欧米勢力の除去」を表向きのスローガンとした『大東亜共栄圏』構想をかかげて日本軍は南方を占領した。</p> <p>・今までの学習から軍票を中心に考えるであろう。</p> <p>・資料VIII-3から抗日ゲリラに対して元の宗主国が支援していたことに気付かせる。</p> <p>・実際にはただの紙切れになってしまった。連合国も日本に対して補償をしなくてよいとした。</p> <p>・難解な事項については解説を加える。</p> <p>・これからどのように東アジアの国々と接していったらよいかを考えていく材料としていけるように考えをまとめさせる。</p> |

資料Ⅰ 太平洋戦争 軍票<に号> (実物)、資料Ⅱ：その他の軍票 (実物)、資料Ⅲ：米軍が沖縄で用いたB円 (実物)、資料Ⅳ：東南アジアに派遣された兵 (日本人) と現地の人々の証言資料 (①-p. 15 など)、資料Ⅴ 番号入り軍票 (実物)、資料Ⅵ：軍票の発行数と物価 (①-p. 160・p. 179)、資料Ⅶ：日本の戦局の展開を示した地図、資料Ⅷ-1：日本軍に親指を立てて歓迎の気持ちを表す現地の子ども、資料Ⅷ-2：日本軍に抵抗する現地の人々、資料Ⅷ-3：反乱軍に届いたアメリカからの援助物資 (武器) (②-p. 139 など)、資料Ⅸ：日本が補償を求められている主な訴訟 (③-p. 87～p. 89)

○使用文献

- ①小林英夫『日本軍政下のアジア』岩波書店、1993
- ②森山康平『秘話で読む太平洋戦争』河出書房新社、2001
- ③朝日新聞戦後補償問題取材班『戦後補償とは何か』朝日新聞社、1994

2-3 「モノ③」への探求過程による単元構成試案 ～「ムックリ」の場合～

○単元名 「ムックリとアイヌの歴史」

○単元の目標

「ムックリ」を通して独自の文化を営んでいたアイヌ民族について触れ、アイヌ民族と交易していた大和民族によって経済・生活や文化に至るまで侵略され、その独自性を否定されてきたアイヌ民族の人々がかかえる今日的課題を理解する。

○単元の概要（4時間計画）

| 学習内容および学習活動・発問 | 生徒の反応 | 資料 | 教師の手だて |
|--|--|---|---|
| <p>【第1時】</p> <p>①ムックリの実物を手にとつて、どんな道具なのか考えたり、資料IV-1の中からムックリが演奏されている場面を探し、演奏の音声や映像から演奏の方法を考えたりする。</p> <p>②この音色がどんなものを表現しているのか、資料IVを参考に考え、他にはどんな楽器があるか調べる。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・変わった音だ ・不思議な音だ ・こんな演奏の仕方をする楽器は見たことがない。 ・自然 ・人々の生活 ・トンクル ・笛 ・太鼓 | <p>I</p> <p>II</p> <p>IV-1</p> <p>III</p> <p>IV-1</p> | <p>実際に手にとらせて、いろいろ試させてみる。</p> <p>・このような不思議な音をどのようにして出しているのか考えさせる。</p> <p>・どうやって音階をつけているのだろうか？</p> <p>・雨だれや鳥の鳴き声といった自然界の情景を音で描写している。</p> |
| <p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">アイヌの人々はどんな時にムックリを演奏したのだろうか？</p> | | | |
| <p>③アイヌの人々はどんな生活をしてきたのか資料から考える。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・狩のあと ・宴会のあと ・踊りのあと ・たこ、魚、あざらし、らっこ、熊などの狩猟 | <p>IV-2</p> <p>IV-3</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・宴会や踊りはどんなときにやっているだろうか？ →儀式(熊送りなど) ・儀式のあとの余興として演奏した。 ・イヨマンテに代表される、さまざまな霊送りの儀式などたくさんの儀式があった。 ・アイヌ独特の文化を育てていた。 |
| <p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">アイヌの人々はどんなものを大切に思って暮らしていたのだろうか？</p> | | | |
| <p>⑨資料IV-1・2・3から和人のかかわりを探す。</p> | | | |
| <p>【第2時】</p> <p>①和人の農民の生活と資料をもとに比較する。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・和人は農業が中心 ・ムックリのような楽器はない。 | <p>V</p> <p>VI</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・描かれているものについて説明を加えていく。 |
| <p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">アイヌの人々と、本州の和人の生活で大きく異なっていることは何だろうか？</p> | | | |
| <p>②和人とアイヌの人々と、どちらが豊かな生活をしてきたのか考える。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・本州の農民は猟をしない。 ・アイヌの人々は農業をしていない。 | | <ul style="list-style-type: none"> ・既得知識を生かして想像させてみる。 |

| 学習内容および学習活動・発問 | 生徒の反応 | 資料 | 教師の手だて |
|--|---|-----------------|---|
| <p>【第3時】</p> <p>①ムックリの素材に注目し、現在の素材である孟宗竹は北海道にないことから問題意識を持つ。</p> | | VII | |
| <p>もともとは、木や根曲がり竹を使って作られた「ムックリ」ですが、いつ頃からかはわかっていませんが、本州の孟宗竹が使われるようになりました。アイヌの人たちはどうやって本州の竹を手に入れたのだろうか？</p> | | | |
| <p>②マキリとコマシャインの戦いについて、資料から考える。</p> <p>③アイヌの人々の交易について教科書で調べる。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・ 本州から買った。 ・ 本州に採りに行った。 <p>・ 和人の鍛冶屋との争いが原因だったんだ。</p> <p>室町時代</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ラッコの皮 <p>江戸時代</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ さけ、にしん、こんぶ ・ 蝦夷錦 | VIII X XI | <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分たちの持っていないものを技術を身につけて作ろうとはせず、交易によって手に入るものは交易で手に入れた。 ・ アイヌの人々は自給自足するだけでなく、交易も盛んに行っていた。 |
| <p>本州の人々（和人）とアイヌの人々との関係はどうなっていったらだろうか？</p> | | | |
| <p>④資料XII から和人とアイヌの人々の関係の変化について考える。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・ 和人に働かされているみたいだ。 ・ アイヌの人々にどんどん不利な交易になっていっている。 | | <ul style="list-style-type: none"> ・ 年表で3度の戦いをしていること、クナシリ・メナシの戦いの後に和人とアイヌの上下関係が確定した。 |
| <p>江戸幕府が倒れたらアイヌの人々はまたもどのような生活ができるだろうか？</p> | | | |
| <p>【第4時】</p> <p>①日本で有数のムックリ奏者弟子（てし）シギ子（73）さんの証言資料から不思議だと思ったことをあげてみる。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・ アイヌ語を親が教えてくれない。 ・ 同化政策 ・ 40歳でムックリを始めた。 | | <p>「どうして弟子さんの両親はアイヌ語を教えなかったのだろうか？」 →アイヌ語を知っていても豊かにはなれない。</p> |
| <p>アイヌ語を知らなかったり、40歳までムックリを知らなかったのはなぜだろうか？</p> | | | |
| <p>②明治以降の年表から①で持った疑問点について考える。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・ 「旧土人保護法」 | | <ul style="list-style-type: none"> ・ “土人”という先住民族をさす呼称は差別的なものであることを確認する。「旧土人保護法」でアイヌ独自の文化が否定されたことを調べる。 |
| <p>ムックリは、今、我々にどんなことを伝えてくれているのでしょうか？</p> | | | |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・ アイヌの歴史 ・ アイヌの文化 | | |

資料Ⅰ：ムックリ（実物）、資料Ⅱ：ムックリの音声資料、資料Ⅲ：ムックリ演奏の映像資料、資料Ⅳ-1：蝦夷漫画（アイヌの人々の風俗を偏見なしに描いたもの）（①-p.66）、資料Ⅳ-2：蝦夷島奇観（①-p.66）、資料Ⅳ-3：蝦夷風俗絵巻（①-p.66）、資料Ⅴ：『四季耕作図屏風』（京都博物館蔵）・・・和人の農民の生活（②）、資料Ⅵ：楽器を演奏している農民（和人）（③）、資料Ⅶ：根曲がり竹（写真）、資料Ⅷ：マキリ（写真）（④-p.157）、資料Ⅸ：アイヌの歴史（年表）（⑤-p.7）、資料Ⅹ：コマシャインの戦いの概要と和人との交易の移り変わり（文字資料）（⑥）、資料Ⅺ：和人とアイヌの鍛冶（⑦）、資料Ⅻ：松前檜山図屏風 差し網による鯨漁と身欠き鯨の加工風景（⑦）、資料13：弟子（てし）シギ子さんのお話（文字資料：証言）（⑧）

○使用文献、HP

- ①大阪人権博物館『大阪人権博物館展示総合図録』1996
- ②樋口清之『ヴィジュアル百科 江戸事情第二巻産業編』雄山閣、1992
- ③樋口清之『ヴィジュアル百科 江戸事情第二巻政治社会編』雄山閣、1992
- ④佐々木利和 『アイヌ文化誌ノート』吉川弘文館、2001
- ⑤大阪人権博物館『リバティノート アイヌ民族』東洋紙業
- ⑥アイヌ民族博物館『アイヌ文化の基礎知識』草風館、1993
- ⑦山本博文 『ビジュアルNIPPON 江戸時代』小学館、2006
- ⑧民族楽器の旅 <http://www.asahi-mullion.com/mullion/column/w-music/050127index.html>

2-4 「モノ④」への探求過程による単元構成試案 ～「生糸」の場合～

○単元名 「生糸と明治維新」

○単元の目標

明治新政府のさまざまな政策を「生糸」の視点から検証し、富国強兵のスローガンの下に“欧米に負けない強い国づくり”をめざしていたことを理解する。

○単元の概要（4時間計画）

| 学習内容および学習活動・発問 | 生徒の反応 | 資料 | 教師の手だて |
|---|--|----------------|---|
| 【第1時】 ①岩倉使節団の見たものから当時の日本の抱える課題について考える。 | <ul style="list-style-type: none"> ・近代国家 ・進んだ工業、文化 | I II III | ・明治新政府の体制を確立しなければならぬ大切な時期に政府首脳が多くを外国に派遣するということは大変異例なことであり、それだけ政府がこの使節にかける期待が多かった。 |
| <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;">「生糸をたくさん作ることは日本の近代化に役立っただろうか？」</div> | | | |
| ①生糸の特徴や製造方法について考える。 ②「この繭玉からどうやったら糸がとれるか考えてみよう。」 ③製糸工場の工女たちの作業を資料を通して検討する。 ④生糸を作った工女の労働環境を調べ、このようにしてまで生糸を生産した理由を考える。 ⑤開国直後の1860年と1867年の貿易のグラフを比べ、日本が貿易黒字に転換するための方法を考える。 | <ul style="list-style-type: none"> ・煮る ・ほぐす ・機械にかける ・20歳前後の女性 ・長時間労働 ・不衛生な労働環境 ・たくさん作ってたくさん輸出するため ・生糸の工場をもっとふやしてたくさん輸出する | III IV V | ②補助的に映像資料で確かめる。 ・結核などの病気になったり、劣悪な労働環境だった。 |
| <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;">「生糸でどうやって初期の明治政府の課題を解決しようとしたらだろうか？」</div> | | | |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・豊かで強い国を作ることが出来た。 | | 『富国強兵』というスローガンのもとで殖産興業政策がすすめられたことを理解する。 |
| 【第3時】 ①生糸をたくさんつくってたくさん輸出するためには必要な条件を考 | <ul style="list-style-type: none"> ・広い土地・大きな工場・たくさん労働者・たくさん原料 | | |

| 学習内容および学習活動・発問 | 生徒の反応 | 資料 | 教師の手だて |
|--|---|-----------|---|
| え、江戸時代の支配のやり方で実現可能なのか検討する。 | ・大量輸送の手段・大量生産する知識や技術 | | |
| 明治政府はどんなところを改革したらうまく生糸をたくさん作って輸出することができるだろうか？ | | | |
| ②労働者や知識や技術の供給、さらに運送の手段についてどうしたのか考える。 ③文明開化について調べる。 | ・知識や技術は外国から取り入れた ・運送は鉄道 | VI VII | ・①で考えたものを政府が自由に使えるようにするにはどうすればよいのか考えさせる。 |
| 【第4時】 ①教科書で明治政府を行った政策を調べる。 ②①の中から、生糸の大量生産・流通に役立った政策を考える。 | ・五箇条の御誓文 ・藩籍奉還 ・廃藩置県 ・四民平等 ・解放令 ・学制 ・徴兵令 ・地租改正 ・版籍奉還→廃藩置県 | | ・教科書の太字を中心に探す。 ②労働者の供給、知識や技術の導入、運送の手段の観点から考える。 |
| 日本の近代化に“生糸”は貢献していましたか？ | | | |
| ③日本はこれからも生糸をたくさん作り続けたら欧米に負けない国になっていくのか考える。 | ・輸出品が一つだけというのは問題がある、不安がある。 ・インドみたいになってしまうのでは？ | | ・日本はこれからどうすればよいのだろうか？ |

資料Ⅰ：岩倉使節団の見たもの（銅版画）（①-p. 59 など）、資料Ⅱ：岩倉使節団を代表する5人の集合写真（①-p. 17）、資料Ⅲ：生糸（実物）、資料Ⅳ：工女の労働条件（表・グラフ）（②-p. 177）、資料Ⅴ：富岡製糸場（錦絵）（②-p. 153）、資料Ⅵ：お雇い外国人と日本人の月給の比較（②-p. 151）、資料Ⅶ：鉄道と生糸（地図）（②-p. 177、③-p. 190）

○使用文献

- ①泉三郎『堂々たる日本人』祥伝社、2001
- ②『社会科 中学校の歴史』帝国書院、2005
- ③野上毅『週刊朝日百科 日本の歴史10 近代Ⅰ』朝日新聞社、1989

おわりに

以上、「モノ」教材を4種に類型化し、それぞれの教材としての性格を踏まえて「探求過程モデル」を構成し、そのモデルを基にした単元構成案を試案的に作成した。この段階までの内包する理論的課題としては、以下の2点をあげることができる。

第一は、4類型を「モノ」教材の「典型」として取り上げたことに伴う課題である。本小論では、4種の「モノ」教材について「探求過程モデル」を提示したが、現実にはすべての「モノ」教材がこの4類型に明確に類別されるわけではなく、「モノ①と②の間」など、各類型が交錯する位置にある「モノ」教材も少なくない。その場合「モノ①」への探究過程と「モノ②」への探究過程の双方の構成要素を含んだモデルを基に単元が構成される必要がある。

第二は、取り上げる「モノ」に応じた単元の規模に関する課題である。例えば上述の「モ

①」の事例で示した「金印」の単元構成では、縄文・弥生時代から小国家の形成までの小単元としている。これを大単元とするには大和國家の形成まで含めることになるであろう。しかし、「金印」単独で大和國家形成までの学習活動を作成することは難しい。卑弥呼が魏から下賜され、国内の有力豪族を取り込むのに用いられた「銅鏡」などと合わせて用いることによって大単元を作ることができるであろう。このようにそれぞれの「モノ」教材の指し示す「意味圏」を見極め、場合によっては複数のモノ教材を用いた単元構成をはかっていくことを検討することも重要であろう。

今後は、提示した単元構成案をもとに実践を重ね、子どもの実際の学習活動を通して、どのような歴史理解を身につけることができたのかを検証していきながら、歴史学習における「モノ」教材の活用意義をより明確にしてゆきたい。また、構成した各探究過程モデルと関連資料の検討を通して、さらにいくつかの授業事例を開発・検証を行うことにより、より汎用性のあるモデルへと発展させてゆきたい。

注

- 1) 白川隆信『歴史モノ教材で授業を変える』地歴社、1993、村上浩一『授業活性化のすぐ使えるモノ図鑑』明治図書、1993、白川隆信「補論 モノと教具」『歴史モノ教材で授業を変える』地歴社、1993、阿部泉『日本史モノ教材 入手と活用』地歴社、1993、渡辺賢二『実物・絵図で学ぶ日本近現代史』地歴社、1993、若木久造『モノからの社会科授業づくり』日本書籍、1992、などがある。また、「モノ」教材を紹介するWEBページとしては、以下のようなサイトがある。

104 ON THE NET <http://homepage3.nifty.com/teacher/index1.htm>

ナマでさわれる実物教材 <http://hw001.gate01.com/haruyuki/>

社会の時間 <http://www.ucatv.ne.jp/~m-naka/>

実物教材&授業のネタ http://www.geocities.jp/tetsuyakuge/sh_jugyo.html

- 2) 上掲白川『歴史モノ教材で授業を変える』p.5
- 3) 上掲村上、p.9
- 4) 上掲白川「補論 モノと教具」
- 5) 上掲阿部
- 6) 川上周二「考古学の手法を生かした歴史授業構成の研究」『社会系教科教育学研究』第6号、1994